垣根を越え 共同で追悼　被爆７０年原爆犠牲者 慰霊式
市民団体や市長、共産、民主、社民各党も献花

～核兵器廃絶、戦争反対を誓う～

8月15日、前橋市嶺公園の原爆碑（原爆犠牲者慰霊碑）の前には90人を超える人々が集まり、広島と長崎で原子爆弾の犠牲となった被爆者を追悼し、非核・平和の誓いを新たにしました。

黙祷のあと、日本基督教団前橋協会の牧師・川上盾さんが「一本の鉛筆があれば」など3曲をギターと歌で献奏。反戦の願いも込められた「シャボン玉とんだ」（二番）を合唱しました。

献奏する川上牧師

実行委員会を代表して滝沢俊治群馬原水協代表理事は「立場の違いを越えて、4年ぶりの開催へ準備をしてきた。NPT会議葉は決議が採択はされなかったものの、核兵器全面禁止の国際的流れは大きな潮流になっている。戦争する国にさせようとする新たな動きに反対していく」とあいさつ。

滝沢さん

慰霊の言葉では、山本龍前橋市長が「核兵器廃絶、恒久平和を」とあいさつし、献花と献水をしました。知事は欠席。

日本共産党からは伊藤祐司団長、酒井宏明県議、長谷川薫前橋市議団長、中澤秀平藤岡市議が参列。市民フォーラムの宮田和夫前橋市議、創世前橋の小林岩男市議も紹介されました。政党は、共産党、民主党や社民党の代表が参列。

被爆者の言葉では、須藤叔彦群友会会長（86）が体調不良のため、欠席。平和委員会会長の小田暁夫さんが須藤さんの著書「閃光一閃」から、長崎の爆心地近くで被爆して家族を失った惨状を朗読し、メッセージを代読しました。

子どもを代表して、広島に学ぶ群馬子ども代表団の高崎市立桜山小6年の松下裕一朗君が、学んだ体験を述べ「核兵器も戦争もない平和な社会を」とすばらしい呼びかけ。

慰霊碑に献花する前橋原水協小林敏男理事長ら

各界からの言葉では、核禁会議の萩原浩二事務局長や平和を守る群馬女の会静けい子さんが、安保法案にも触れてあいさつ。青年代表は、群馬民医連事務局の塩原茂樹さんが、「長崎の世界大会に参加して、被爆体験を伝える大切さが分かった。継承していきたい」と決意。

群馬生協連会長の中嶋源治さんは、「安保法案反対の決議を上げた」と紹介し、廃案への決意を語りました。

このあと「私たちの思い～被爆70年群馬県原爆犠牲者慰霊式にあたって～」の決議を確認しました。

小田さん

松下君

萩原さん

静さん

塩原さん

中嶋さん

バイオリンの演奏をバックに「原爆を許すまじ」を全員で合唱したあと、被爆者の荒木勲さん（群友会太田支部長）ら5人が献花しました。

手前は被爆者と遺族のみなさん

参加者は核兵器廃絶と被爆者援護、非戦の誓いを込めて献花しました。 16日付の上毛紙なども大きく紹介。8ヵ月間準備してきた被爆 70 年慰霊式は、被爆者や被爆2世の方とも交流し、これからの運動につながる可能性が生まれました。

原爆展と人間。写真展　各地で
渋川市は広報や学校、回覧板で紹介

この夏、県内各地で原爆写真展が開催されています。高崎市や安中市、前橋市などは行政が主催。渋川市と吉岡町では、平和委員会の原爆展を市と町が全面協力しました。

渋川市は市内の３つの中学校に原爆展の案内チラシを配布。町内会も市の広報と一緒に全戸にチラシが届けられました。渋川平和委員会は、感想文をニュースで紹介。

また、同平和委は市内７つの寺や協会へ折り鶴を持って訪問する平和巡礼を行い、住職や牧師と交流しました。

渋川平和委員会の原爆展（8月4日市役所ロビー）

被爆７０年の原爆展県庁内で開催へ！

群馬原水協は、国連軍縮週間に連帯して、１０月２６日～２８日県庁内１階県民ホール（南）で写真展「原爆と人間展」を開催することを決めました。